

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人の理念である「熱意・愛情・根気」のある接遇を心掛けているか、ご利用者が地域の中でその人らしく生活できるよう支援できているかグループ会議で確認し、理念に沿ったサービスが統一されて行えるよう心掛けている。	法人理念と「一人一人の想いと笑顔を大切に支援する」というホーム支援指針については来訪者にもわかるように玄関に掲示し共有に努めている。また、月1回のグループの会議の中で理念に則した支援に向け事例を上げ話し合い、実践に繋げている。家族に対しては利用者の日々の様子を見ていただき気づいたことや意見を頂き、サービスの向上に繋げている。ベテランの職員が多く、理念の主旨を良く理解し、利用者一人ひとりの想いを受け止め支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において地域の方々との関わりが困難な状況であったが、散歩時の近所の方々との挨拶、顔なじみのお店での買い物などで地域との繋がりを継続している。	開設以来地域の一員として地域に密着し、様々な情報も頂き参加出来る行事に積極的に参加してきたが、昨年春以降の新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け殆どの地域行事が中止となり残念な状況が続いている。コロナ収束後にはまた積極的な活動を再開する予定である。そのような中、隣接の老人保健施設と合同で納涼祭や敬老会を行い職員の出し物や体操、ゲーム等を行い、楽しいひと時を過ごしている。また、最近の、感染の落ち着きを見て地域スーパーへの買い物外出が再開され、地域の人々と挨拶を交わしながら買い物を楽しんでいる。また、各種地域ボランティアの受け入れも収束後に再開し、利用者との交流の場を持つ予定にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けての活動や支援等は行っていない。地域ケア会議が開催される時は参加し、意見を求められたり、提案できる事があれば行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防のため通常の会議が行えず、書面開催として2ヶ月に1度行っていた。活動内容や必要な報告をさせていただいている。	例年であれば2ヶ月に1回、利用者代表、家族代表、区長、地域包括支援センター職員、民生委員、南神戸婦人部、ホーム関係者の出席で開催していたが、昨年春以来今年10月まで新型コロナの影響を受け、密を避けるため書面での開催とし、ホームの状況等を書面にしてお届けしてきた。そうした中、11月より対面での運営推進会議を徐々に再開し、会議に合わせキノコ汁での食事と焼き芋会を行い新たなスタートを切った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍のため行き来ができず、書面での関わりが多い状況であった。認定更新の機会に、調査員の方にご利用者の暮らしぶりやご様子を伝えている。	秋より地域ケア会議が再開され、10月には警察署員、郵便局員、保険会社職員の出席の下、一人暮らしの安否確認の仕方や見守り、防災について説明を受け参考になったという。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪して行われ、コロナ禍のため職員が立ち合い、家族から事前にお聞きした話も伝えている。	

グループホームくらし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。玄関の施錠は防犯上夜間のみとし、入所時に説明して了承を得ている。併設老健で行われる勉強会に参加し何が身体拘束にあたるかを学び、日々のケアでスピーチロック等がないか会議等で確認している。	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。玄関ドアは開閉されると鈴の音で知らせてくれるようになっている。日中はほとんどの利用者がホールで過ごしていることからきめ細かな所在確認に繋げ、玄関は日中開錠されている。転倒、落下危険のある方がおり、家族と相談の上センサーマットを使用している。毎月の職場代表者会議の席上身体拘束適正化委員会を開き拘束に対する知識を深め拘束のない支援に取り組んでいる	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の研修への参加や、会議において虐待について話し合う機会を設け、不適切なケアがなされていないか職員全体で確認している。傷、ケガが確認された時は職員間で共有し、速やかにご家族に報告している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度が必要と思われるご利用者が常におられるため、計画作成担当者が中心に制度に関わる研修に参加している。今後は他の職員の研修参加も検討。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前よりご本人、ご家族の不安や疑問をお聞きする時間を設け、丁寧な説明を心掛けている。退居を含めた事業所の対応可能な範囲についても説明を行い、ご納得いただいた上でご利用頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、ご連絡の際に要望をお聞きしている。併設老健に設置された意見箱もあるが、直接ご意見を言うて下さることの方が多い。ご利用者の思いは日々の関りの中から汲み取れるよう心掛けている。意見や思いは職員間で共有し、話し合い反映させている。	殆どの利用者は元気で意思表示ができ、きめ細かく提案し、表情を見て要望を受け止めるようにしている。家族の面会は8月のお盆過ぎから9月一杯はコロナの感染拡大の影響を受け自粛していたが、それ以降は事前に予約を頂きワクチン2回接種済み条件に15分以内の対面での面会を行っている。県外居住の家族については事前に連絡を頂き、2週間以内の行動履歴を提出していただくことで面会していただく様にしている。年末には忘年会を計画しており、1家族1名限定で家族参加の下行う予定を立てている。また、ホームの日々の様子は年4回発行されるお便り「くらし新聞」でお知らせしている。更に、担当職員は毎月最低1回、利用者一人ひとりの様子を電話で家族に話すようにしており家族からも喜ばれている。	

グループホームくらし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダーを中心に職員の意見を聞き、グループ会議で話し合っている。リーダーは職場代表会議で意見を出し、上司とコンタクトを取り反映させている。	月1回グループ会議を行い、代表者会議の報告、業務内容・行事内容の確認、カンファレンス等を行い職員の意見を汲み上げ、サービスの向上に役立っている。法人として人事考課制度があり、目標管理シートを用い自己評価を行い、6月と11月の年2回管理者による個人面談が行われ、日頃の業務内容等様々な事柄に付いて話し合い個々のスキルアップに繋げている。また、年1回、職員のストレスチェックが外部機関に委託して行われ、職員のメンタルヘルスにも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者及びリーダーは職員個々の体調、事情を考慮した勤務を組むよう努めている。年に2回の人事考課では職員が向上心を持って働けるよう、個々の意見、意向を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の力量や経験年数に合わせて外部研修に参加したり、月に1回行われる法人内の研修を職員自身が企画し実施している。また、認知症の専門知識を向上できるように研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の会議等で情報交換を行っている。互いのサービスの質の向上を図るため相互訪問を行いたい旨の話を受けることはあるが、コロナ禍において実現できていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人と面談し、状況と思いを把握するように努めている。ご利用前にGHIにお越し頂き、環境面の不安等お聞きし対応している。ご利用者によっては、併設老健のリハビリの一環である調理リハビリとしてGHIに通っていただき、互いの理解を深めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との事前面談において不安、要望をお聞きし、状況把握に努めている。施設見学をして頂き、ご家族にわかりやすく説明することを心掛けている。気になったこと、心配事などお電話にても随時対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の思いを大切に、可能な限り柔軟な対応ができるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作り、洗濯、掃除などの日々の活動はご利用者中心で行って頂き、職員は必要な補助に徹することを心掛けており、一人一人が役割を持って助け合って生活されている。畑仕事など、職員の方がご利用者に教えていただくことが多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診においてはご家族中心に行っているため、都度ご様子を細かくお伝えしている。少ない方でも月1回は関わりを持たれ、受診後などご自宅に寄られる等、ご本人との繋がりを大切になされている。面会も多く、精神的にもご本人の精神的な支えとなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所においてはコロナ禍であったため控えていただいた。面会制限が解かれた期間は、ご家族よりご友人に連絡していただき、施設内で面会され関わりを持たれていた。	ワクチン2回接種済み条件に家族より連絡を頂いた、友人、お孫さんの来訪があり、短時間居室にて寛いでいただいている。中学生以下の子供さんについてはインフルエンザの関係で来訪はお断りしている。また、月1回、馴染みとなった訪問美容師の来訪があり、パーマやカラーの対応もしている。年末に向け個人別に年賀状を手書きで作成し家族に発送する予定がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人役割を持って生活されているため孤立は見られない。ご本人ができないことは、できるご利用者が自然と手伝われ、互いに支え合う生活をご利用者自身で作られているため、職員が学ぶことが多い。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度3名のご利用者が退所され、退所先に支援状況書を提供。ご家族が近くに来られた際は立ち寄られ、近況を報告して下さっている。系列施設へ入所された方のご様子は時折見に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接伺っても本心を話してもらえないこともあるため、日々の会話の中から思いを汲み取れることを心掛けている。伝えることが困難な方は表情や行動からご本人の立場で考えて読み取るよう努めている。	殆どの利用者は自分の思いを伝えられる状況で、食べ物、飲み物等は二者択一を含めきめ細かな提案を行い、自分で選んでいただくようにしている。日々生活を送る中で気づいた事柄については介護記録に纏め、申し送り確認し合い利用者一人ひとりの意向に沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報だけでは把握しきれない事が多いため、生活の中でご本人の生き生きとした様子が見られる度に、ご本人、ご家族に改めてライフスタイルを伺い、新たな情報を増やしながらご本人像を捉えている。		

グループホームくらし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在、74歳から100歳の方々が一緒に生活されているため、それぞれの毎日の状態を把握し、個々に合った過ごし方をして頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がモニタリングを行っている。ご本人、ご家族に意見をお聞きした上で、GHの会議で職員と話し合い、プランが現状にそぐわない状況の際はプランの見直しを行っている。	職員は1～2名の利用者を担当し、居室管理、家族との連絡業務等を行っている。担当職員と管理者が連携してモニタリングを行い、カンファレンスで他の職員の意見も聴きプラン作成に繋げている。家族の希望は更新時近くに来訪された際に聞きプランの中に反映させている。ケアプランの見直しについては基本的に3ヶ月毎に行い、状態が安定している場合は6ヶ月で行い、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い、一人ひとりに合った支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子が共有できるよう、日勤、夜勤で個々の記録をとっている。新たに実施したケアが適切であるか、記録により確認し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況を把握し、要望に対応できるよう心掛けている。受診において、ご家族に事情があり対応できない際は施設にて行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、民生委員、郵便局、外部のケアマネジャーの方々と意見交換ができる場に参加し情報交換を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	自宅でのかかりつけ医を継続されている。受診はご家族対応であるが、施設での状況がわかるよう状況書を作成し、医師との連携を図っている。必要に応じて受診の付添に同行している。	入居時に医療機関についての希望を聞いている。現在、全利用者が入居前からのかかりつけ医を利用しており、家族が受診にお連れし、受診時に自宅の様子を見られたり食事をされて来られる方もいる。一人ひとりの情報は管理者に一本化され、医師との連携が取られている。また、隣接する老人保健施設の看護師の来訪が週1回あり、利用者の健康管理に当たっている。歯科については必要に応じかかりつけ医の受診で対応し、口腔ケアについては老人保健施設の歯科衛生士が月1回来訪し口腔ケアの指導に当たっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の管理は職場内の看護師を中心にやっている。変化時は、主治医の指示を仰ぎ必要な受診に繋いでいる。緊急時は併設老健の医師、看護師に相談して対応し、専門機関へと繋いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、ご本人の支援に関する情報を医療機関に提供している。担当ケースワーカー、看護師、ご家族と連絡を取り合い、可能であればご本人状態を見させていただき、退院後の支援に向けて連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所説明の際、施設での看取りは行っていないことをご家族に説明させて頂き、重篤化された場合のご意向を伺い、個々の主治医に伝え情報を共有している。体調変化時は主治医の指示、判断を仰ぎ、施設でできる限りの対応をしている。	利用契約時、看取り支援は行っていないことを説明している。食事を摂ることや入浴時に浴槽を跨ぐことが難しい状況となり重度化に到った時は家族と相談の場を持ち意向を確認し、当ホームで取り組める最大限の支援に取り組み、隣接の老人保健施設や他施設への住み替えを含めた支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の初期対応は連絡網、マニュアルを作成している。応急処置については併設老健の医師、看護が行う、又は指示を受けながら行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、併設老健と合同の防災訓練を行っている。地元消防団に参加いただき、内1回はGH出火想定で実施している。災害対策については職場代表会議でも取り上げており、管理者が研修に参加して備えている。	隣接の老人保健施設と合同で5月と10月の年2回防災訓練を行っている。5月には消防署員の参加の下、「火災模擬訓練」「夜間想定避難誘導訓練」「非常時の炊き出し訓練」「通報訓練」等を行い、10月には出火を想定した避難訓練を利用者参加で行い防災への意識を高めている。備蓄は「水」「食料」等が隣接の老人保健施設に準備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助や声掛けは、さり気なく行うことを心掛けている。ご利用者への思いの近さが馴れ馴れしい言葉使いとして表れることがあるため、互いに注意し合うよう定期的に会議で伝えている。	利用者と職員の心地よい距離感を保ち、馴れ合いにならないよう気持ち良く過ごしていただくようになっている。言葉遣いには気配りをし優しさの中にもハッキリとした問い掛けをするようにしている。また、トイレ介助の際には周りにわからないよう気を付け支援に取り組んでいる。声かけは基本的には苗字に「さん」付けでお呼びしており、自分の苗字がわからない方には名前に「さん」付けとしている。入室の際にはノックと「入ります」の声掛けを忘れないよう徹底している。会話の中で気づいたことはすぐに話し合いサービスの向上に繋げるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さなことでもご本人が決められるよう、個々の理解度のレベルに合わせた問いかけ、説明を行っている。言葉での自己決定が困難な方は、いくつかの選択肢を用意し、表情から読み取るよう心掛けている。		

グループホームくらし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペース、その日の体調によって気分も変わられるため、その時々のお気持ちを尊重して過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はご本人が選び、カット、パーマは美容師が月1回来て行い、その人らしいお洒落を楽しまれている。外出の際はあれこれ迷われ、身支度に時間がかかる方が多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立をご利用者と一緒に考え、調理、配膳、片付けも一緒に行っている。手作りならではの良さがあり、皆さん食事を楽しみにされている。誕生日はご本人のお好きなメニューにし、希望時は外食や出前を随時楽しませている。	全利用者が自力で食事が摂れる状況で、職員と共に会話を楽しみながらひと時を過ごしている。献立は朝の体操後に希望を聞き、冷蔵庫の中の食材から選んで調理している。肉と魚のバランスを考え、昼と夜が重ならないよう意識して調理している。また、食材の買い物に利用者も同行していただき好きな物を選んでいただいている。元気な利用者が多く、包丁を使って調理に参加する方も数名おり、賑やかなキッチンとなっている。月3回ほど希望を聞き、「お弁当」「かつ丼」「親子丼」「カレー」等を出前で取り寄せ楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事、水分量に配慮、注視している。食事摂取量の少ない方は好物や高カロリー食品を提供している。食事制限のある方、嚥下困難な方は適した食形態での提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っている。できる部分はご自分で行って頂き、仕上げ磨きや確認は職員で行っている。夜間は義歯洗浄剤を使用して義歯の清潔にも努めている。口腔ケアの困難な方については、随時、併設老健の歯科衛生士に相談し指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表、iPadを利用して個々の排泄の間隔を把握し、声掛け、誘導を行いトイレでの排泄が継続できるよう支援している。夜間はリハビリパンツを使用される方も、日中は下着に変えて過ごして頂き、オムツ類の使用時間減少に努めている。	自立の方が半数弱で、一部介助の方が半数強となっている。職員は利用者一人ひとりの状況を把握しており、定時誘導に合わせ一人ひとりの様子を見てトイレにお誘いしている。排便については排便状況を排泄チェック表に記し、3日間排便がない場合は飲み物にオリゴ糖を混ぜて飲んでいただいたり買い物にお誘いで体を動かすようにしている。合わせてお茶を中心にココア、紅茶、カルピス等で1日1,000cc以上の水分摂取に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便パターンを把握している。毎日30分行う体操の中で、無理なく水分を2杯飲んで頂けるよう工夫している。排便のつかない方にはオリゴ糖の摂取、散歩、買い物などで対応。下剤は主治医指示のもと使用することがあるが稀である。		

グループホームくらし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	医師からの指示がある方を除き、個々の入浴したい日、時間に入浴して頂いている。湯温や入浴時間も個々の好みに合わせ、気持ちの良い時間を過ごして頂くことを心掛けている。	一般浴の浴室と広い浴室の2つが設けられ、利用者の状況に応じ使い分けている。お風呂は毎日立て、入浴拒否の方もなく、毎日、または1日おきに入っている。入浴剤を使用し、「ゆず湯」「菖蒲湯」「リンゴ湯」等で季節のお風呂も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡の時間も設けているが、個々のその日の状態に合わせてお好きな時に休めるようになっている。夜間も安心して休めるように、個々のペースに合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの服薬一覧表、処方箋のコピーにて職員が内容を把握しやすいようにしている。服薬の変更があった際は受診・服薬記録で周知をかけ、状態の変化に注視し、様子を主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔ながらの干し柿作り、畑作業、花壇の世話等、個々の得意分野で助け合いながら力を発揮されている。外気浴をしながらの昼食、外食、外出などの楽しみを各利用者さんと相談しながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において外出もままならなかったが、お弁当を持っての花見、紅葉ドライブ後の外食が行え喜ばれていた。ご家族との受診後に自宅に寄られ、懐かしい時間を過ごされる方もいらっしゃる。	施設内は自力で歩ける方が多いが、外出時には自立歩行の方が若干名で、歩行器使用の方と車いす使用の方が数名ずつとなっている。天気の良い日には施設の周りを散歩したり芝生敷きの広い庭で昼食を取りながら楽しいひと時を過ごしている。春先から秋に掛けてはホームの畑の植え付けから収穫まで、一人ひとりの力量に応じ参加していただいている。コロナ禍でもあるが、人の少ない所、少ない時間帯を選び、4月にはお弁当持参で野球グラウンドまでお花見に出掛け、11月には1年ぶりに隣の「クラフトパーク」への紅葉ドライブを楽しみ、昼食には回転ずしに立ち寄り大好きなお寿司をおなか一杯食べて楽しいひと時を過ごしたという。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は全員分を金庫で預かっている。外出時の支払いは個々の状態に合わせて、職員からの手渡しや見守りの中での支払いを行って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、電話や手紙はいつでも行える。電話の際は、他者に気を使わずゆっくり話せるよう、事務所の電話を随時使って頂いている。		

グループホームくらし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の採光は天窗がついており自然光が入るようになっている。常に換気を行い、季節ごとの花を飾り、懐かしい音楽を流している。廊下には季節行事の楽しかった写真や作品を飾り、廊下を歩く時も回想できるような空間にしている。	ホーム正面の陽当たりの良い所には芝生敷きの広い庭があり利用者の寛ぎの場所となっている。また、北側には広い畑があり年間を通し野菜が栽培されている。ホーム内は玄関から廊下の壁にかけ1年間の活動の様子を写した写真が数多く飾られている。ホール兼食堂は天井も高く開放感が漂い心地の良い広さが確保されている。そのような中、利用者と職員が一つの家族として日々の生活を送っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂はいつも開放されており気の合ったご利用者同士で思い思いに過ごされている。、玄関ホールと玄関外にある椅子に座られ外を眺めたり、夕涼みされる方もいらっしゃる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に持ち込まれる物に関して制限はなく、使い慣れた物や、ご本人の思い入れのある物をお持ちいただくようご家族にお願いをしている。	整理整頓が行き届き清潔感漂う居室には洗面台と大きなクローゼットが設けられ暮らし易い造りとなっている。持ち込みは自由で、使い慣れたイス、テーブル、ハンガーラック、衣装ケース等が持ち込まれ、壁には家族の写真や職員から贈られた敬老会・誕生日のお祝いカード、また、数多くの自分の作品や外出時等に写した写真に囲まれ、思い思いの日々を過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、廊下、トイレ、浴室には手すりが設置され、個々の状態に合わせて使用している。居室内も個々が使いやすいよう配置。場所を覚えられない方のため、居室と共有場所に目印や貼り紙をしている。		